



知床科学委員会 しんぶん

海域ワーキンググループ No.4

知床世界自然遺産地域科学委員会 海域ワーキンググループの活動内容をお伝えします！

平成26年度活動内容

○平成26年度においては、海域ワーキンググループ会合が2回開催されました。

<第1回会合 平成26年7月10日、羅臼町で開催>

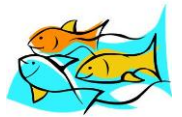
- ・知床の海の現状や変化を把握するために実施したモニタリングの評価内容などについて協議しました。
- (モニタリング項目) 海氷、水温、生物相、有害物質、サケ類、スケトウダラ、トド、アザラシ類、海鳥類、海ワシ類、社会経済

<第2回会合 平成27年2月25日、札幌市で開催>

- ・平成25年度に実施されたモニタリングの結果について、評価を行いました。
- ・モニタリング結果や評価を取りまとめた「知床世界自然遺産地域多利用型統合的해양管理計画 定期報告書」について協議しました。
- ・世界遺産委員会に提出する保全状況報告書について報告がありました。

構成メンバー

大島 慶一郎 (北海道大学)	中明 幸広 (北海道立総合研究機構)
帰山 雅秀 (北海道大学)	服部 寛 (東海大学)
小林 万里 (東京農業大学)	牧野 光琢 (水産総合研究センター)
桜井 泰憲 (北海道大学) <座長>	松田 裕之 (横浜国立大学)
鳥澤 雅 (北海道立総合研究機構)	山村 織生 (水産総合研究センター)
永田 光博 (北海道立総合研究機構)	



ユネスコ世界遺産センターに保全状況報告書が提出されました

2012年に開催された第36回ユネスコ世界遺産委員会において、知床の保全状況が審議され、トドの捕獲数や個体数の動向、また管理の状況などについて報告を求める決議が行われました。

2015年1月に決議に対する回答として、知床の保全状況に関する報告書がユネスコ世界遺産センターに提出されました。

(主な報告内容)

- ・トドの採捕可能頭数の推移、採捕数の推移、個体数の動向
- ・漁業被害額の推移、管理対策の状況



第2回会合の様子

この報告は、今年開催される第39回ユネスコ世界遺産委員会で検討される予定です。

多利用型統合的海域管理計画 定期報告書から見る知床の現状

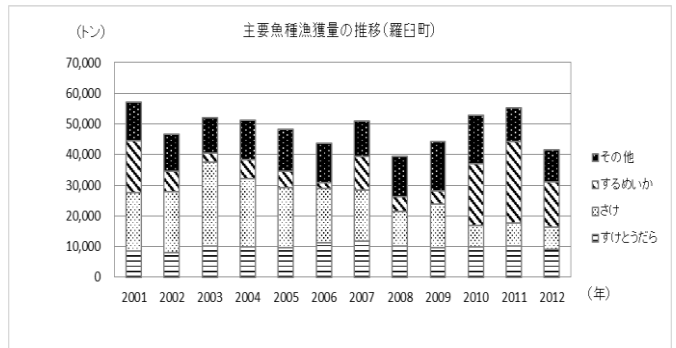
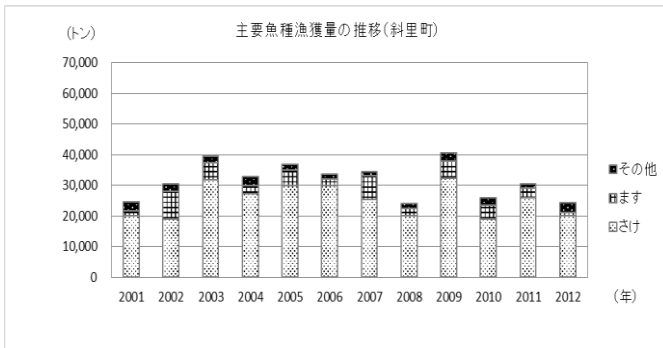
モニタリング結果をまとめた「2013年度定期報告書」から、知床の現状をご紹介します。

<生物相：浅海域における貝類定量調査>

- ・2013年8月、4カ所（チャシコツ崎、文吉湾、知床岬、相泊）で貝類の種、個体数を調査。
- ・2綱6目8科8属の貝類が観察され、出現した貝類相に関しては調査地間で顕著な差はなかった。
- ・調査で頻出していた種は、2006、2008年の調査結果とほぼ変わりはない。

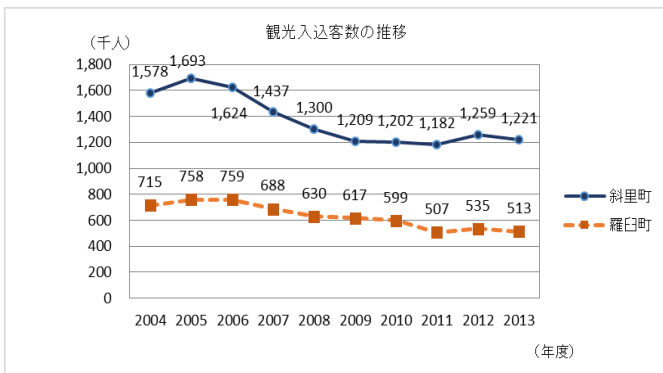
<漁獲量>

- ・2012年の漁獲量は斜里町が24,496トン、羅臼町が41,420トンとなり、それぞれ前年を下回った。
- ・斜里町の魚種別推移はサケ類の占める割合が非常に高い状況に変化はないが、羅臼町の魚種別推移は近年サケ類の占める割合が減少傾向にある一方で、スルメイカの割合が増加している。



<観光入込客数>

- ・2005年度を境に減少傾向が続いていた観光入込客数は、2012年度は増加に転じたが、2013年度は前年度に比べ減少した。
- ・2013年度訪日外国人宿泊者数は前年度に比べ増加し、引き続き増加傾向にある。



※定期報告書は北海道庁ホームページ (<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/skn/ssi/seaplan.htm>) からご覧いただくことができます。

会議の内容をもっと知りたい方はこちら

知床データセンター
<http://dc.shiretoko-whc.com/>



第2期海域管理計画も
 ご覧いただくことができます。

◆お問い合わせ先◆

北海道環境生活部環境局生物多様性保全課
 〒060-8588
 札幌市中央区北3条西6丁目
 電話 011-231-4111 (代)
 内線 24-357

〈平成27年3月発行〉

委員 牧野 光琢

大学の漁業管理の専門家として、知床の生態系を保全し、観光客の増加による環境負荷の軽減を図る。また、知床の魅力を高め、観光客の増加による環境負荷の軽減を図る。また、知床の魅力を高め、観光客の増加による環境負荷の軽減を図る。

委員の
 牧野です



独立行政法人 水産総合研究センター中央水産研究所漁業管理グループ長。国内外の漁業管理・海洋政策に関する研究を行っています。